

洗足学園音楽大学大学院
コンチェルトの夕べ

2021年10月10日(日)開演 15:00 (開場 14:30)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

指揮: 現田 茂夫

演奏: 洗足学園音楽大学 大学院室内管弦楽団

独奏: 大西 悠斗 大学院1年(マリンバ)
山崎 春奈 大学院2年(フルート)
高城 美希 大学院2年(ピアノ)
宍戸 育実 大学院1年(ヴァイオリン)

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting

本日は『大学院コンチェルトの夕べ』にご来場いただきましてありがとうございます。

本日独奏する4名は、それぞれのコースでのオーディションの後に、最終全体オーディションという更に厳選された場を踏んだ精鋭になります。この演奏会は本大学院の最大の特徴である「プロフェッショナル特殊研究」の演奏研究の一環にもなっています。

前田ホールという大きな舞台から日本、世界の楽団に羽ばたく彼らに大きな拍手をお願い申し上げましてご挨拶にかえさせていただきます。

どうぞ最後までお楽しみください。

洗足学園音楽大学・大学院教授
渡部 亨

Program

E.セジョルネ／マリンバと弦楽のための協奏曲 2006年版
Emmanuel Séjourné (1961-) // Concerto for Marimba and Strings Version 2006

C.ニールセン／フルート協奏曲
Carl Nielsen (1865-1931) // Flute Concerto, FS119

Intermission

L.v.ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品19
Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Piano Concerto No. 2 in B-Flat Major, Op.19

P.I.チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 作品35
Peter Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Violin Concerto in D Major, Op.35

Program Note

E.セジュールネ／マリンバと弦楽のための協奏曲 2006年版

Emmanuel Séjourné (1961-) // Concerto for Marimba and Strings Version 2006

エマニュエル・セジュールネはフランスの作曲家、打楽器奏者である。弦楽オーケストラとマリンバのための「マリンバ協奏曲」は2006年に開催された第1回リンツ国際マリンバコンクールの本選の課題曲として作曲され、2015年に新たな楽章が付け加えられ3楽章形式の協奏曲となった。今回は初版である2006年版を演奏する。

第1楽章 Tempo souple

弦楽器の美しい序奏により幕を開けると、マリンバの大胆なカデンツァが奏される。ジャズに影響を受けたセジュールネ氏ならではのリズムと、ロマン派の音楽を感じさせるハーモニーが融合したユニークな楽章であると言えよう。

第2楽章 Rythmique, Énergique

第1楽章とは打って変わり、リズムックかつスリリングな楽章である。技巧的なパッセージが散りばめられた第1主題から、フラメンコを彷彿とさせる8分の11拍子の第2主題へと流れ込んでいく。この2つの主題の使い方がこの楽章の注目すべき点であり、場面の変化を劇的なものに行っていると感ずる。最後は8分の12拍子に変奏された第2主題を経て、荘厳なクライマックスを迎える。

(大西 悠斗)

C.ニールセン／フルート協奏曲

Carl Nielsen (1865-1931) // Flute Concerto, FS119

カール・ニールセンは、ロマン派以後デンマークを代表する作曲家である。貧しい家庭に生まれたニールセンは、コペンハーゲンのデンマーク王立音楽院で学び、デンマーク王立劇場オーケストラのヴァイオリン奏者として活動する傍ら作曲を続けた後、王立コペンハーゲン音楽院の理事に就任、コペンハーゲン音楽協会の指揮者としても活躍した。作曲家として、6つの交響曲の他、3つの協奏曲、管弦楽曲、オペラ、室内楽曲等、多彩な作品を残しており、強烈な個性によって、これらの作品は20世紀デンマークの音楽界に決定的な影響を及ぼした。

1922年、コペンハーゲン管楽五重奏団の為に《管楽五重奏曲》を作曲し、大成功を収めたニールセンは、団員それぞれに協奏曲を献ずることを決め、最初に完成したのが《フルート協奏曲》だ。2作目の協奏曲であるこの曲は、1926年10月1日に完成し、10月21日にパリで初演、翌年に改訂稿が発表された。前作の《ヴァイオリン協奏曲》と同じく2つの楽章で構成されている。

第1楽章は活気に満ちた序奏の後、フルートが奏でる舞踏的な第1主題が続き、その後穏やかな第2主題が提示される。独特で不安な響きを奏でながら、やがて室内乐的な雰囲気の中で、静かに楽章を閉じる。

第2楽章は律動的なモチーフで始まり、フルートが優雅で舞曲風な主題を示す。様々に変容された後の挿入部では3拍子に変化し、フルートに新しい主題が奏される。再び舞曲風の主題が戻り、曲の後半部分では行進曲風の主題が発展していく。最後は技巧的で華やかなフルートが奏でられ、短いコーダをもって曲を終える。

(山崎 春奈)

L.v.ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 作品19

Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Piano Concerto No. 2 in B-Flat Major, Op.19

1795年に初演された、ベートーヴェン最初のピアノ協奏曲。第1番よりも先に作られた関係から、楽器編成や全体の構成は小さく、苦心と試みの形跡をより多く留めている。ベートーヴェン自身この作品には自信を持っていなかったらしく、最上の作ではない、ということを手紙に書いている。明るく活発な曲想を持つこの作品は、全体にベートーヴェンらしい緊張感があり、ピアノの効果的な用法が随所に散りばめられている。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ、協奏風ソナタ形式。まずオーケストラのみで力強く第1主題が提示した後、発展していく。対照的に独奏ピアノはかわいらしく優雅に弱音で始まり、その後改めて第1主題を威勢良く再提示する。第2主題は第1ヴァイオリンで奏され、それに装飾をつけてピアノが繰り返す。華やかな展開部があるが、あまり長いものではない。カデンツァはベートーヴェンが残したものが1曲あり、今回はそれを演奏する。

第2楽章 アダージョ、自由な変奏曲。オーケストラによって甘美な主題が歌われるとピアノがそれに応えるように登場する。まるでだんだんと胸の内を告白していくかように、自由に冒頭の主題を変奏させながら展開していく。

第3楽章 モルト・アレグロ、ロンド形式。最初にいきなりピアノがカッコーの鳴き声のような、軽快なロンド主題を奏する。オーケストラがこれを繰り返す。副主題を2つはさんだこの楽章は、いかにも青年ベートーヴェンらしい活気に満ち溢れている。

(高城 美希)

P.I.チャイコフスキー／ヴァイオリン協奏曲 作品35

Peter Ilyich Tchaikovsky (1840-93) // Violin Concerto in D Major, Op.35

世界中で最も人気のあるヴァイオリン協奏曲のひとつであるこの曲は、ラロの「スペイン交響曲」に触発され、1878年に旅先のスイスにて1ヶ月足らずという短期間のうちに仕上げられた。ブラームス、メンデルスゾーンと同様に、唯一のヴァイオリン協奏曲で、チャイコフスキー特有のロシアの民族的な色彩と力強い情熱が曲全体を覆っている。加えて彼が得意としたバレエ音楽を思わせる優雅な旋律、オーケストラとの緻密なアンサンブルが特徴的である。最初ヴァイオリニストのレオポルト・アウアーに献呈されたが、「演奏不可能」として長らく放置され、聴衆や批評家からは「悪臭を放つ音楽」などと酷評を受けていた。しかし初演者のアドルフ・ブロッキーはこの曲の真価を見抜き、批判に怯むことなく各地で演奏を続け、その熱意により長い年月をかけ評価されるようになった。

第1楽章 アレグロ・モデラートの序奏部とモデラート・アッサイの主部(ソナタ形式)から成る、ロマンチックで華やかな楽章。チャイコフスキー自身が作曲したカデンツァが中心に置かれ、技巧的な見せ場も多い。

第2楽章 カンツォネッタと題された複合3部形式の愁いに満ちた美しい楽章。切れ目なく第3楽章に続く。

第3楽章 序章の後、トレパークに基づく躍動感のある激しいリズムの第一主題から展開される、ロンドソナタ形式の楽章。やや落ち着いた第二主題に移行するも、すぐに活気を取り戻し、華々しく熱狂的なフィナーレで全曲を閉じる。

(宍戸 育実)

Profile

指揮 / 現田 茂夫

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。1986年二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、二期会オペラ「こうもり」等で活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。1987年、新星日本交響楽団指揮者に就任。1988年来日中のドレスデン・フィルに客演。1990年新星日響とヨーロツパ演奏旅行。同年ウィーン国立歌劇場に国費留学。1991年スロヴァキア・フィルに客演。1992年プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年“プラハの春”での“佐藤しのぶリサイタル”は、センセーショナルにヨーロツパで放送された。1996年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで、関西二期会、東京二期会を中心に数多くの公演を行なっている。“佐藤しのぶドラマチック・リサイタル”(全国ツアー)、“夕鶴”のカザフスタン/ウズベキスタン/東京公演、“天守物語”等、日本のオペラも積極的に行なっている。2004年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに同日本公演でも好評を博した。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員や、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを3年間務めるなど、バラエティに富んだ活動を行なっている。



©K.Miura



©K.Miura

マリンバ独奏 / 大西 悠斗 (院1年)

神奈川県出身。神奈川県総合高等学校卒業。12歳からドラムセット、16歳からマリンバを始める。洗足学園音楽大学を首席で卒業。第37回打楽器新人演奏会に出演、審査員特別賞を受賞。第26回日本クラシック音楽コンクールにて5位。クラシックの演奏活動以外にも、バンドサポートやセッション、レコーディングなど幅広い活動を行なう。これまでに打楽器を中村祐子、清水太に。ドラムセットを原大力、神田リョウの各氏に師事。中村功氏、藤本隆文氏のマスタークラスを受講。



フルート独奏 / 山崎 春奈 (院2年)

三重県出身。8歳よりフルートを始める。大友太郎、菅井春恵、高橋聖純、室木志穂の各氏に師事。第18回みえ音楽コンクールフルート部門中学生の部第1位及び岡田文化財団賞受賞。国立音楽大学演奏・創作学科弦管打楽器専修フルート専攻卒業及び管打楽器ソリスト・コース修了。故H.シュマイザー、J.フェランディス、P.ベルノルド、S.ティリー各氏のマスタークラス、小泉浩氏の特別公開講座を受講し、研鑽を積む。フルートカルテットChou Chou Torteメンバー。関東を中心に訪問演奏や自主企画公演等、アンサンブルでの活動も積極的に行う。第20回“万里の長城杯”国際音楽コンクールアンサンブル部門大学の部最高位受賞。第28回日本クラシック音楽コンクールアンサンブル部門第5位入賞。



ピアノ独奏 / 高城 美希 (院2年)

福岡県出身。4歳よりヤマハ音楽教室で学ぶ。洗足学園音楽大学ピアノコースを卒業。在学中、2019年度ピアノコース特別選抜演奏者に認定。同年、「電子オルガンによる管弦楽曲とピアノ協奏曲の夕べ」にソリストとして出演し、モーツァルトのピアノ協奏曲第21番を演奏。2017年音の夢ピアノコンクール第1位、室内楽賞を受賞し、九州室内合奏団と共演。第36回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会入賞。ラ・フォル・ジュルネTOKYO2018にて丸の内エリアコンサートに出演。現在、ピアノを江崎昌子氏に師事。



ヴァイオリン独奏 / 宍戸 育実 (院1年)

栃木県出身。5歳より才能教育研究会（スズキ・メソッド）でヴァイオリンを始める。これまでにヴァイオリンを川沼文夫、栗原りか、水野佐知香、近藤薫、ヴィオラを大野かおる、古川原裕仁、室内楽を安藤裕子、川田知子、須田祥子の各師に師事。2018年より現在まで安永徹・市野あゆみ両氏による講座「ヴァイオリンとピアノによるデュオ」の特別レッスン生。洗足学園音楽大学弦楽器コース首席卒業。



Members

Concertmaster 高橋 沙織 成田 叶

1st Violin 林 桃子* 橘 純子* 堀口 健人* 大江 沙耶* 森田 絢子*
中山 智子* 井上 葵* 前田 明日香* 大槻 茉莉子* 中野 夏実*

2nd Violin 瀨 萌香 菅野 稚子 雨川 笑子* 菱田 あゆみ* 大谷 桜子*
小宮 園花* 香田 早智* 恒吉 泰侑* 田中 彩生* 齊藤 直美*

Viola 大森 陸 リチャード 加藤 可奈子 チョウ イチン 工藤 海青
加藤 星南* 栗國 朝陽* 高橋 楓* 有山 志音*

Violoncello 有馬 憧 荒木 匠登* 原 美月* 丹野 陽介* 奥平 華子*
原 悠一*

Contrabass 本橋 和樹* 安田 廉* 平木 晶穂* 本田 直也*

Flute 府川 悠理 吉村 由望 石井 優菜 村松 紀親

Oboe 河村 真歩 土屋 愛菜*

Clarinet 椿 秀隆* 吉川 清香*

Bassoon 栗城 典子* 小田 光*

Horn 白戸 麻未* 須藤 彩華* 大塚 季* 増永 梨花子*

Trumpet 國米 晴貴* 馬場 夏子*

Trombone 武石 拓海*

Timpani 越中 亮太 東 廉悟

* 演奏補助要員

企画運営責任者
渡部 亨

指導教員

上野 正博 近藤 薫 沼田 園子 中 一乃 永原 幸太 吉村 知子
安藤 裕子 大野 かおる 荒 庸子 羽川 真介 辻 功 松本 健司
勝俣 泰 石井 喜久子 井手上 達 清水 太

アカデミックコーディネーター
岩岡 一志

助手
中村 日向子